

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1093 号	氏 名	田 中 学
論文審査担当者	主 査 佐々木 克典 副 査 森 泉 哲次・栗 田 浩		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>配向連通孔ハイドロキシアパタイト(unidirectional porous hydroxyapatite、UDPHAp)は、軸方向に貫通する連通孔を持った骨再生スキャフォールドである。田中は UDPHAp を、組織工学に用いられる三次元スキャフォールドとして、現在臨床で広く用いられている非配向性の連通孔ハイドロキシアパタイト(interconnected calcium porous HAp ceramic、IP-CHA)と比較して評価した。</p> <p>田中は、UDPHAp と IP-CHA の <math>\mu</math>CT による気孔率・比表面積の測定、強度試験、rhBMP-2 の徐放能力の評価、SEM による表面の観察を行った後、in vitro の実験として、接着した細胞形態の観察、蛍光顕微鏡による細胞接着様式の観察、Alamar blue assay による細胞増殖性の評価を行い、さらに in vivo の実験として、recombinant human BMP-2 (rhBMP-2) を添加した UDPHAp と IP-CHA をマウス頭蓋骨欠損部へ移植し、骨形成能を評価した。</p> <p>その結果、田中は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. IP-CHA と比較して、UDPHAp は高い気孔率を示したが、比表面積は同程度であった。</li><li>2. UDPHAp の軸方向への圧縮強度は IP-CHA よりも高く、破断エネルギーは同程度であった。</li><li>3. UDPHAp は、IP-CHA よりも緩徐に rhBMP-2 を放出した。</li><li>4. In vitro の実験において、UDPHAp 上の細胞は、足場材深部まで接着していた。</li><li>5. 細胞増殖試験でも、UDPHAp は IP-CHA に比較して有意に多く細胞を増殖させた。</li><li>6. マウス頭蓋骨欠損モデルでは、UDPHAp の気孔内に骨梁構造の再生を広範囲に認め、骨梁構造は足場材の深部まで及んでいた。一視野中に再生された骨梁構造の量的な比較においても、UDPHAp は IP-CHA に比較して有意に多くの骨再生を認めた。</li></ol> <p>これらの結果より、気孔率 84% の UDPHAp は、骨補てん剤としてだけでなく、再生医療にも応用可能な優れた骨形成足場材であると考えられた。よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			